

「生きる支援」展開模索

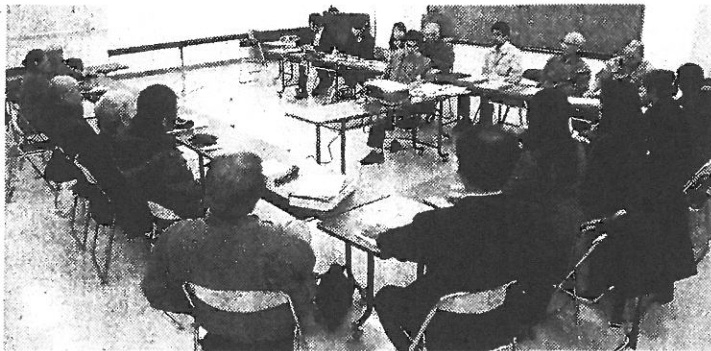
「思いは一つ。自殺者をひとりでもなくしたい」「自殺を減らすために何ができるのか」。甲府市内の会議室で11月末、約20人が熱く語り合った。

自殺防止やメンタルヘルズ相談などに取り組む山梨いのちの電話や労働組合、精神科医、弁護士などの団体や専門家のほか、大学生や会社員、失業中の人、うつ病経験者などが加わっている。

彼らは、10月末に開かれた自殺問題を考える集会の出席者だ。自殺率が全国ワースト1の山梨で議論を深めようと企画された集会には、県内外から2日間で延べ約4

取材メモ
から
③

自殺率全国ワースト1の山梨



50人が参加。その中から「自分たちにも何かできないか」と声を上げた有志が、話し合いの輪に入

った。

「駆け込み寺として、場所を提供したい」「連携して支援していく必要がある」。立場や状況は異なるものの、誰もが自殺に真剣に向き合い、ともに考えていこうとする姿勢がそこにあった。

これまでの取材を通じて、自殺を凶った人や遺された家族の思いに触れた。年間3万人以上の人が自らの命を絶っていく中、自殺というだけでその背景や原因が十分に語られないことが少なくない。未遂者の支援や遺族のケアの必要性も痛感した。

一方で、現状を何とかしようと思き出す人たちがたくさんいることも知った。自殺を「社会的に追い詰められた末の死」と捉え、背景にある複合的な要因を懸命に探る。多角的な視点で取り組む人たちがネットワークを構築する機運が、集会をきっかけに県内でも高

まりつつある。

警察庁によると、今年1～11月の県内の自殺者数は前年同期より4人少ない324人(暫定値)。全国の自殺者数は2万9105人(同)で、前年同期に比べると1252人少ないが、依然として高い水準が続いている。

青木ケ原樹海を抱え、発見地を元にした警察庁の自殺率が3年連続して全国で最悪の山梨は、「生きる支援を展開する重要な拠点」でもある。いまこの瞬間にも失われつつある命を守るための対策が急務となっている。官民が協力しながら、地域の実情に即した中長期的な対策を考えていくことも重要だ。

21日に、集会后3度目の話し合いがある。他県の取り組みを参考にしながら、今後の活動について検討する予定だ。「自殺のない、生き心地の良い社会」を目指して、記者として、一個人として、自分ができることを問い続けていきたい。(佐藤美鈴)

11月末、約20人が集まって自殺対策について話し合った。甲府市